吾輩は猫である。名前はまだない。

どこで生まれたかとんと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていたことだけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかも後で聞くとそれは書生という人間中で一番獰悪な種族であったそうだ。その書生というのは時々我々を捕まえて煮て食うという話である。

夏目漱石『吾輩は猫である』より

20 × 10

3 年 B 組

吾輩は猫である。名前はまだない。どこで生まれたかとんと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていたことだけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかも後で聞くとそれは書生という人間中で一番獰悪な種族であったそうだ。その書生というのは時々我々を捕まえて煮て食うという話である。

夏目漱石『吾輩は猫である』より

20 × 10

3 年 B 組

吾輩は猫である。名前はまだない。

どこで生まれたかとんと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていたことだけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかも後で聞くとそれは書生という人間中で一番獰悪な種族であったそうだ。その書生というのは時々我々を捕まえて煮て食うという話である。

夏目漱石『吾輩は猫である』より

20 × 10

3 年 B 組

　吾輩は猫である。名前はまだない。
どこで生まれたかとんと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていたことだけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかも後で聞くとそれは書生という人間中で一番獰悪な種族であったそうだ。その書生というのは時々我々を捕まえて煮て食うという話である。

夏目漱石『吾輩は猫である』より

20 × 10

3年B組

吾輩は猫である。名前はまだない。どこで生まれたかとんと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていたことだけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかも後で聞くとそれは書生という人間中で一番獰悪な種族であったそうだ。その書生というのは時々我々を捕まえて煮て食うという話である。

夏目漱石『吾輩は猫である』より

20 × 10

3年B組

吾輩は猫である。名前はまだない。

どこで生まれたかとんと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていたことだけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかも後で聞くとそれは書生という人間中で一番獰悪な種族であったそうだ。その書生というのは時々我々を捕まえて煮て食うという話である。

夏目漱石「吾輩は猫である」より

20 × 10

3年B組